

## 日本労働年鑑 第25集 1953年版

The Labour Year Book of Japan 1953

## 第三部 労働政策

## 第六編 使用者の労働対策

## 第二章 対米協力体制の推進

一 日経連は一月末、他の財界六団体(経団連、経済同友会、日商、日本貿易会、日産協、金融団体協議会)と共に、日本財界の総意として「講和条約に関する基本的要望書」をダレス特使に提出しその中で、アメリカによる日本防衛の確約とアメリカ軍の駐兵を希望し、そのための基地の提供を申し出ていたが、マッカーサー元帥の解任をみた翌日には直ちに日経連は左のごとき同元帥に対する感謝決議を行って「このよき指導者よき理解者」に深い惜別の情を表明した。

マッカーサー元帥に対する感謝決議(五一・四・一二)

われら崇敬と親愛惜く能わざるマッカーサー元帥が今般突如として連合軍最高司令官の任を退かれたことは、われら経営者にとって誠に感慨無量なるものがある。

マッカーサー元帥には連合軍最高司令官として終戦以来過去五年有半に亘り敗戦国日本人に対し常に慈愛にみちた好意的援助の手をさし延べられたばかりでなく、個人の自由と尊厳について確固たる信念を教え、これに基く国主義の真髓による各般の改革を着々と断行せられ、われら経営者またその指導によりこれを経営の新しい理念として心に銘じつつ日本経済の再建に献身することを得たのである。

このよき指導者よき理解者をわが国より失うことは湧然として惜別の情深く、元帥の不断の御好意と御努力に対し衷心感謝の念に堪えないものがある。

われら経営者は元帥によって培われ育成された民主化の完成に向って邁進し、以て元帥の御好意に応えんことを誓うものである。本日ここに全国各地別全業種別の経営者の代表が一堂に会し日本経営者団体連盟第四回定時総会を開催するに当り、われら総意をもってマッカーサー元帥に対し絶大なる感謝の意を表明する次第である。右決議する。

また四月一四日には日経連と通産省の共同主催になる管理者訓練計画(MTP)評価発表会議において、横尾通産大臣から、MTPに対する好意ある指導について、極東空軍司令部に感謝状が送られた。

二 講和を控えて日経連は経営者の国際的提携に努力したが、六月、かねて渡米中の鹿内日経連事務局長とアメリカ経営者協会(NAM)のディレクターとの間に友好的提携の話し合いができ、情報交換、経営思想交換、使節団交換に努力することとなり、ここに日米経営者の中心団体の協力が緒についた。

また同じ六月、ジュネーヴで開会中のILO総会にはオブザーヴァーとして、使用者代表に三菱重工代表清算人岡野保次郎氏が出席したが、日経連からもILOへの日本の正式再加入の実現方を懇請し、同総会本会議は日本復帰を、賛成七七、反対一一、棄権七で可決した。

三 サンフランシスコ講和調印に当って、日経連、経団連、経済同志会、日本商工会議所、日本貿

易会、全国金融団体協議会、日本中小企業連盟、日産協の八団体は、トルーマン大統領、アチソン首席全権、ダレス全権委員ら六名に謝電を送った。

講和後の新情勢に経営者の決意を新たに結集するために開かれた第二回全国経営者大会では、日経連の国際経営者機構(IOE)への加入者を決議し、日経連から加入申請を行っていたが、一二月開催のIOE理事会は、一九五一年度からの日経連の加入を承認し、ここに日本の経営者は「自由世界」二八カ国の経営者と正式な連けいをもつこととなった。

日本労働年鑑 第25集 1953年版

発行 1952年11月15日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 時事通信社

2000年8月10日公開開始

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1953年版(第25集)【目次】 次のページ→ ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---